

Net Work Report FORWARD

ネットワークレポート
フォワード 第40号
for working together

特定非営利活動法人大阪障害者雇用支援ネットワーク
〒540-0031 大阪市中央区北浜東3-14(エルおおさか4F)

TEL:06-6949-0350
FAX:06-6949-1256

<http://www.workwith.or.jp/>
E-mail: o-isc@onyx.dti.ne.jp

発行人/江口 敬一

今号のごあいさつ

「2011障がい者雇用フォーラム in 大阪」開催に向けて

代表理事 江口 敬一

今年の「障がい者雇用フォーラム in 大阪」は、9月27日(火)に会場がドーンセンターから大阪城天守閣を180度見渡せる追手門学院大阪城スクエアに変わって開催されます。

会場も変わりましたが、従来の基調講演形式から大阪障害者雇用支援ネットワークの原点である障がいのある人の就労に直結したプログラムを企画いたしました。

テーマとして近年就労へのニーズも高く、社会的課題となりつつある発達障がいのある人の就労と社会参加について雇用企業の事例を中心に会場の皆さんと一緒に考えたいと存じます。ご登壇者には2010年 東京、名古屋、大阪で同時に開設され、全国に先駆けて24名の発達障がいのある人を雇用された東京海上グループの特例子会社東京海上ビジネスサポート(株) 大阪支社長 内藤 哲さんと障がいのある人の権利擁護と共生社会の実現に向けて国レベルで活躍され、また東京海上ビジネスサポート設立の準備段階からアドバイザーとしても支援された毎日新聞論説委員の野沢和弘さんをお招きし、内藤さんからは操業後1年半余りが経過した雇用現場からの実体験と野沢さんからは発達障がいのある人が就労するために必要な支援や、地域社会の受け入れ体制、彼らが私たちに投げ掛けている課題等について広い視野からのメッセージを頂戴したいと存じます。当ネットワークからは、就労支援サイドから先駆的に発達障がいのある人の就労に取り組み、東京海上ビジネスサポート(株)に12名の就労を実現し、現在も職場定着のためのフォローアップを継続中の

大阪市職業リハビリテーションセンター サテライトオフィス 平野所長の酒井京子さんにもご参加いただきます。障がいのある人は何らかの支援がないと一般社会から排除



されてしまう哀しさがありますが、適切でしっかりとした支援があれば、企業が期待する能力が発揮でき、また対象とされる当事者数の規模からもこれまでの障がいの概念を超えた一般問題としての捉え方が今問われていると内藤さんは常々おっしゃっています。

今年5月に公開されたベストセラー作家万城目 学氏原作の映画「プリンセス・トヨトミ」をご覧になった方も多いとは存じますが、大阪国の存在の有無は別としまして独立自尊とプリンセス(大切なもの)を永遠に守り続けるという使命が父親から息子へさりげなく引き継がれていく展開に大阪人にはたまらなく心惹かれるのがあり、そして勇気と元気をいただきました。ご登壇者と小生も父親として共有と共感できる同じ立ち位置がございます。9月のフォーラムでは、真っ赤に燃える大阪城を眼下に大阪人のみならず日本が元気になるようなひと時を会場の皆様と過ごしたいと存じます。多数のご参加をお願い申し上げます。

第11回通常総会開催

～ゆるやかな働く場・当事者たちの 選択できる働き方にむけて～

広報事業部 永野 有紀

5月21日(土)、NPO法人大阪障害者雇用支援ネットワークは、(株)ダイキンサンライズ摂津で第11回通常総会を開催しました。平成22年度の事業報告・収支報告と平成23年度の活動方針についてそれぞれ確認しました。

今回の全般的執行方針として、障害者の雇用に対する支援はもちろん、セカンドステージサポートセンター、いわゆるリタイアされた方や一般就労がしんどい方など、ゆるやかな働く場の創設などについても今後取り組んでいくことを確認しました。また、今回の総会で、当ネットワークの創設期のメンバーの田中純幸さん(NPO法人大阪精神障害者就労支援ネットワーク 事務局次長)が退任し、新たに金塚たかしさん(NPO法人大阪精神障害者就労支援ネットワーク 門真 所長)が理事として役員に変わりました。

来賓を代表し、3名の方に祝辞・メッセージをいただきました。

○労働局 職業安定部 川端 康裕 職業対策課長

(大阪労働局長メッセージを代読)

本年4月の月例経済報告によると、景気は持ち直していたが、東日本大震災の影響により、このところ弱い動きとなっています。大阪の雇用情勢については、3月の有効求人倍率0.64倍と前月と同水準で推移しており低い状況にあります。



▶川端職業対策課長
(メッセージを代読)

障害者の雇用状況についても、平成22年6月1日現在の大阪府雇用率は、1.67%と前年

に比べて0.07ポイント改善していますが、法定雇用率の1.8%にはほど遠く、法定雇用率達成企業の割合も前年に比べて1.6ポイント改善しているものの44.5%にとどまっています。

こうした状況の中、大阪労働局では、雇用率の達成指導について、達成企業割合50%をめざし、大手企業を中心に指導に回っています。一人でも多くの方が就職に結びつき職場に定着できるよう取り組んでまいります。

○大阪府商工労働部 雇用推進室 山口 宗久 雇用対策課長

(橋下知事メッセージを代読)

本府におきましては、障害者雇用日本一をめざすため、昨年4月に障害者の雇用の促進と職業の安定を図るため、ハートフル条例を施行し、障害者雇用率の達成に向けた取り組みを誘導・支援しています。また、併せ



▶山口雇用対策課長
(メッセージを代読)

て、障害者を多数雇用する中小企業の法人事業税を軽減するハートフル税制の創設など障害者雇用の促進に向けたさまざまな取り組みを実施しています。また、教育面でも、障害のある生徒の就業教育に力をいれているところです。

障害の有無に関わらず誰もが働くことに生きがいを感じながら、暮らすことの出来る大阪を実現するためには、雇用を目指す企業の皆様のご理解と企業の取り組みをサポートする支援機関のご協力が不可欠です。ひきつづきのご協力をお願い致します。

○連合大阪 多賀 雅彦 事務局長

連合は「働くことを軸とする安心社会」を社

会に訴えています。働くことに最も重要な価値をおく、そして公正な労働条件のもと、多様な働き方で社会に参加できる、また安心して暮らしていけるといった社会像です。その中で、年齢・性別・



▶ 連合大阪 多賀事務局長

そして障害の有無に関わらずつながりあえる仕組みを作っていくことが必要だと認識しています。そうした観点から、連合・連合大阪は国、自治体機関に対して、若年者や女性・障害者の労働施策の強化について要請し続けています。また春季生活闘争でも、賃上げ・時短を求めるだけでなく、障害者の雇用、法定雇用率の達成に向けて進めています。連合大阪として、これからも障害者雇用の促進に向けて、さらに皆様方と連携を深めて取り組んでまいりたいと思います。

新年度の各事業部の取り組み

インターンシップ事業部

障害がある方への事業所における体験実習(障がい者の態様に応じた多様な委託訓練)を通じ、地域の支援機関、支援者、家族と連携した一体的な個別就業生活支援マネジメントを企画・実施することにより、当ネットワークに相談される障害がある方への社会参加を応援します。

〔主な事業〕

- (1) 障害者インターンシップ
- (2) お・こ・しカフェ
- (3) 学生インターンシップ研修
- (4) 進路指導担当者向け研修

地域ネット事業部

＜支援ネット構築事業＞

府内全体の就労にかかる課題を明確化していき、福祉・医療・教育・労働・法務等が課題を共通に認識し、協同して課題解決を図ってい

く体制づくりが必要です。就業・生活支援センター関係者のみならず、支援学校、就労移行支援事業所、B型事業所、医療関係者、企業等の関係者に集まっていただき、昨年度からのテーマである、「アセスメント」「ネットワーク構築」等に関して、勉強会などを企画し、つながりのある、生きた就労支援ネットワークのあり方を研究し、情報交換、情報共有する場作りを企画したいと思います。

〔主な事業〕

- (1) 各領域における就労支援システムのあり方研究

＜企業ネット構築事業＞

企業の障害者雇用の促進と継続を図るため、情報提供やコンサルティング体制を充実させ、企業相互支援ネットワーク体制を構築します。障害者雇用企業における、障害者の職場定着や雇用管理上の問題、就労・生活支援での問題解決を図るために、企業が主体となって相互の情報交換をし、支援し合う事ができるネットワークづくりに取り組みます。また、OSK企業ネットが障害のある人が地域で働き、そして充実した生活を営める環境づくりの一翼を担う確固とした社会資源となるように地域の労働組合も含めた関係諸機関等とも連携をしながら、大阪府下の各地域にネットワークの輪をさらに量的・質的に広げていきます。

〔主な事業〕

- (1) 障害者雇用企業情報交換会議（地域企業ネットワーク構築）
- (2) OSK企業ネット会員・企業ネット事業部拡大運営会議
- (3) ハートフル事業所ネットワーク事業/企業相談



▶ 新年度の取り組みに耳を傾ける参加者

(4) 障がい者多数雇用事業所サポート事業

ジョブコーチ養成事業部

障害のある人の一般就労に対する支援のニーズが高まり、地域において新しい就労支援の枠組みができるなか、福祉サイドの第1号職場適応援助者（ジョブ・メイト）や企業サイドの第2号職場適応援助者（ジョブ・コンダクター）は本人と企業の双方のつなぐ重要な役割を担っており、これまで5年間で500名の育成を行ってきました。今後ますますジョブコーチに対するニーズは高まっていくものと思われ、それらに応えるため、ジョブコーチ養成研修の定員をこれまでの40名から50名へと増員を図るとともに、修了者のフォローアップやネットワークづくり情報発信にも力を注いでいきます。

また、厚生労働省の標準カリキュラムの変更に伴い、現場で求められている内容により即したカリキュラムに変更しより一層内容を充実させるとともに、より多くの人に研修に関わってもらえるよう講師の交代を図ります。

〔主な事業〕

- (1) 職場適応援助者養成研修の開催（大阪版）
- (2) 職場適応援助者養成研修の開催（地方版）
- (3) ジョブ・メイト／ジョブ・コンダクター養成事業（アドバンスト研修）
- (4) 就労支援者養成事業

広報事業部

就業しようとする障害のある人とそれを取り巻く事業主、支援者や家族をはじめとする関係者、そして障害のある人の就労に関心のある人に対して広く情報を提供します。

〔主な事業〕

- (1) 障害者雇用フォーラム in 大阪
- (2) 広報啓発事業 機関誌「FORWARD」の発行
- (3) 広報啓発事業 「ホームページ発信」

顕彰事業部

障害のある人の雇用、働く場面の創出、働く気持の尊重、働く可能性の開発などに貢献する

企業を探し、評価し、さらに広げていくことを目標として、事業を実施します。

顕彰事業部としては、ランプのともしび大賞表彰にかかる活動は今後も継続します。今年度は印刷物等の配布は行わず、NPO会員関係者からの推薦により、理事会において選考、表彰を行います。表彰は雇用フォーラムにおいて行います。会員の方々には、ランプのともしび大賞の対象となる事業所の推薦・開拓をお願いします。

〔主な事業〕

- (1) ランプのともしび企業活動顕彰事業

◆新しい役員体制

代表理事	江口 敬一
副代表理事	湯川 隆司
副代表理事	高原 義宏
理事	金塚 たかし（新任）
理事	伊集院 貴子
理事	竹本（乾）伊津子
理事	應武 善郎
理事	久保 克己
理事	秦（酒井）京子
理事	嶋田 彰
理事	永野 有紀
理事	森 悟子
理事	矢野 孝
監事	時枝 民生
監事	安蔵 崇史



▲(写真上)
新役員のメンバー紹介の様子



◀(写真左)
新しく理事になられた金塚たかしさん

第11回通常総会記念講演会

大阪障害者雇用支援ネットワークのこれまでとこれから

NPO大阪障害者雇用支援ネットワーク 理事 乾 伊津子



▶熱心に講演を聞き入る参加者

5月21日、第11回通常総会終了後、当雇用支援ネットワークの創設時から係わってこられたJ S N（NPO法人精神障害者就労支援ネットワーク）次長の田中純幸氏よりこれまでを振り返り、またこれからを展望してご講演を頂いた。田中氏は今回の理事改選を機に後進に道を譲る形で、理事を同じJ S Nの金塚たかし氏に引き渡された。

◎ネットワーク誕生の前夜

雇用支援ネットワークは今から15年前、1996年3月16日、第1回の会議が招集された。創設時のメンバーとしては、ネットワーク初代代表の関宏之氏はじめ矢野氏、炭田（元㈱ニッセイ・ニュークリエーション代表取締役常務）氏、連合大阪の伊東元会長・伍賀氏・乾等15名であった。特に伍賀さんは、当時連合大阪政策局の重鎮として活躍する中、最初から会議の事務局として下支えをされていた。

きっかけは連合大阪からの発信であった。92年の連合白書には「障害者雇用を促進するために企業に社会的責務を果たすのを求める」と同時に、労働組合の果たす役割を忘れてならない」と記されている。また94年に、連合は初めて「障害者雇用フォーラム」に取り組み、翌年2回目のフォーラムではじめて関氏との出会いがあった。さらに11月の役員改選で前川朋久氏が会長に就任。現大阪府の橋下知事に先んじて「大阪を障害者雇用日本一に」と就任の挨拶をされた経緯がある。当時田中氏は大阪労

働局の障害者雇用担当官であった。障害者雇用に携わる多くの人が同じ気持ちであったように、前川会長のことばに衝撃を受け、たいへん勇気づけられたという。労働組合のトップが障害者雇用にコミットした。企業での障害者雇用を広げていく過程に労働組合が果たす役割はとて大きいと思っていた田中氏は小躍りする思いであったという。

◎大阪障害者雇用支援ネットワークの発足

このようにして96年3月16日ネットワークの前身が立ち上がった。黄ばんでしまった呼びかけ文を田中氏は今でも大事に持っている。メンバー15名。座長は関宏之氏、事務局は連合大阪、例会は月1回で第3土曜の午後2時から。議論をし、例会終了後は懇親会で交流を深める。このスタイルが15年間、今もずっと続いている。さらに9月には関西経営者協会が合流し、労働組合と経営者協会が障害者雇用の一点でスクラムを組んだ。目を見張った、「大阪はなんとすごいだろー！」。このようにして雇用支援ネットワークは連合大阪の議論と活動から発信され、事業の幅を大きく広げていくことになる。

◎しなやかで先見性のある議論と活動

会議はメンバーがほとんど欠けることなく開催された。座長の関氏は次回のテーマをきめ、メンバーは毎回レポートを作成しての議論だった。基本的なスタンスは「大阪で何ができ、何をしなければならぬのか」を考える。そのために一人ひとりの思いとプランを持ちあい議論した。中身を大事に、それぞれの立場で丁寧に話し合いを重ねた。最初に取り組んだのは「障害者の雇用促進と就労の安定を図る」というQ&A。

雇用支援ネットワークがやろうとしていることを多くの人が理解し、期待し、協力した。熱い議論を毎回交わした。伍賀さんがそれぞれの提案と議論の内容をきちんと整理し発信してくれた。現在事務局が毎月例会に向けて発信してくれているものの原点である。田中氏はその黄色紙の第1号を今でも大切に保管している。

ネットワークの議論は、集まった人の思いを大切に作る姿勢をとってきた。マスコミに報道したり著名人を招聘（しょうへい）したりせず、丁寧に企業や支援者、労働局、労働組



合などそれぞれの立場 ▶ 熱く思いを語る田中純幸さん
場でそれぞれの思いを出し合い、しなやかな議論をしてきた。そして先見性のある議論から独自の「インターンシップ制度」という事業を生み出した。障害者施策の一つになった現在の「トライアル雇用制度」である。

そうした実績から2006年3月バリアフリー化推進功労者賞として内閣総理大臣表彰を受けた。しなやかに、ていねいに、大見栄をはることなく、議論の中からでてきたことを、企業の協力を得て取り組んできたことが国の政策に反映されていく。まさに先取り政策の先鞭的な役割を果たしてきた。こうした歴史があったということに改めて紹介したい。それ以外にもアドバイザー養成講座、ジョブコーチ養成研修、就業・生活支援センター連絡会、企業顕彰制度「ランプの灯大賞」、そういったものはネットワークが独自に生み出した。それが国の事業や府の事業なり、社会的な仕組みとして取り上げられてきたのである。さらに当ネットワークの真髄ともいえる「企業ネット」がある。障害のある人を雇用している企業同士が集まり、ノウハウを交換する。お互いの情報や意見交換の場として企業同士が交流することで研鑽（けんさん）が図られ、社会的なメッセージを発信していく。最近では福祉サイドとの連携が大きなテーマとなっている。企業が福祉サイドと連携することは言葉では簡単だが、なかなか取り組めるものではない。当ネットワークを軸にして大阪のそれぞれの地域で行われている。参加している人は、社会的意義や障害者雇用から考えた意味合いをもう一度しっかり捉えて、これからも企業ネットを大事に育てて欲しい。

◎働くこと 支えること 学ぶこと

働くことは、障害があろうとなかろうと、人として生きていく、尊厳を保つ意味でまさに基盤になる。その人生の基盤を支えることが我々の仕事。企業の経営者もキーパーソンも就労機関のスタッフも、ここに集まっているのは彼ら

の働くということを支えるためである。思いを共有し、確信を得るためにここに来ている。私たちは、間違いなく障害のある人から、家族から、企業からも頼りにされている。経営者、キーパーソン、人事担当者、一緒に働く同僚からもネットワークは頼りにされている。

どうすれば就職を願っている生徒をサポートできるのか、生徒に頼られた先生がここに来る。また、就労支援サイドの人が就労をどう進めていくか、企業にどう理解してもらうか、そんなことをネットワークの会議の中でヒントをもらい、つながりができる。自分たちのやろうとしていること、やっていることは間違いない、こうした確信や手応えを得るために皆ここに来る。

一人ひとりが志、情熱をもっている。志、情熱は「ランプ」である。関氏が言っていたように、ヘレンケラー女史の「ランプを今少し高く掲げて下さい」という思いを基本に雇用支援ネットはこれからも動いて頂きたい。

以前と比べると影響力が少なくなってきたという議論もある。しかしそうではない。行っている様々な事業は障害のある人が「働く」という上では欠くことのできない大切な事業。だからこそ国や府や市がさまざまな形で関与している。ネットワークのやっている活動や理念は行政からも注目されるものであり、行政は我々を頼りにしている。つたない私達ですが、頼りにされたらそれに応えていきましょう。一人では応えられないかもしれないが、これだけの仲間がいて、これだけのネットワークがあれば充分応えていくことができる。こんなふうに思っている。

最後に江口代表から花束贈呈があり、田中氏のこれまでの活動について謝辞がありました。本当に長い間ありがとうございました。これからは一会員としてお力添え下さい。



▶ 講演終了後、江口代表理事から花束を受け取る田中さん

<短期職業訓練インターンシップ実施状況 (H23.6.30)>

I. インターンシップ登録及び実施状況

実施中及び実施済件数	19人
修了数	17人
中退数	2人
(うち雇用移行の ための中退数)	(1人)
実施中数	20人
実施予定および調整中	12人
登録取消	1人
IS利用登録人数合計	54人

II. インターンシップ相談者状況

<全体>

		身体				小計	知的	精神	その他	計
		聴覚	視覚	肢体	内部					
実施	修了者数	0	0	0	0	0	4	8	1	13
	中退者数	0	0	0	0	0	1	1	0	2
	実施中数	1	0	0	1	2	8	12	0	22
小計		1	0	0	1	2	13	21	1	37
実施予定・調整中		0	1	0	0	1	9	6	0	16
登録取消		0	0	0	0	0	1	0	0	1
合計		1	1	0	1	3	23	27	1	54

III. 就職状況

	身体	知的	精神	その他	全体
就職者数	0	0	1	0	1
障害種別就職率	0%	0%	5%	0%	3%

※就職状況については一部確認が取れていない所があるため、数に反映できていない可能性があります。

NPO 大阪障害者雇用支援ネットワーク 事務所を移転しました

5/30に事務所を移転いたしました。同じ会館内にはなりますが、階数が変更しております。今後も一層のご支援を賜りますようお願いいたします。

なお、新規事業の受託に伴い、今年度限定ですが事務所のスタッフが増員されました。事業開始以来初めての8名体制のため、不慣れな所もありご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、新規スタッフともどもよろしくご指導ください。

所在地 〒540-0031 大阪府中央区北浜東3-14 エルおおさか4F

TEL 06-6949-0350 FAX 06-6949-1256 E-Mail o-isc@onyx.dti.ne.jp

(電話・FAX番号やメールアドレスは変更ございません。)

「2011障がい者雇用フォーラム in 大阪」にご参加ください

毎年9月の障がい者雇用支援月間にあわせて開催している「障がい者雇用フォーラムin大阪」を本年も下記のように開催します。多くの皆様のご参加をお待ちしております！

- 日 時**：2011年9月27日（火） 13：00～16：30 （12：30受付開始）
- 場 所**：追手門学院 大阪城スクエア
 大阪市中央区大手前1-3-20 地下鉄谷町線「天満橋駅」徒歩7分
- 主 催**：連合大阪、NPO大阪障害者雇用支援ネットワーク
- 後 援**：大阪府、（社）関西経済連合会
- 内 容**：(1) 主催者あいさつ
 (2) ハートフル企業顕彰制度表彰式
 (3) 公開シンポジウム「発達障がいのある人の就労と社会参加を考える～雇用の現場から」
- | | |
|--------|---|
| 特別ゲスト | 毎日新聞社 論説委員 野沢 和弘 氏 |
| 雇用企業から | 東京海上グループ特例子会社
東京海上ビジネスサポート(株) 大阪支社長 内藤 哲 氏 |
| 支援側から | (社福) 大阪市障害者福祉・スポーツ協会
サテライト・オフィス平野 所長 酒井 京子 氏 |
| 進行役 | 特定非営利活動法人
大阪障害者雇用支援ネットワーク 代表理事 江口 敬一 氏 |

参加費：無料

事前申込制：9月20日（火）締切

お問い合わせ：NPO大阪障害者雇用支援ネットワーク

TEL 06-6949-0350

アクセスマップ

- ・京阪電車「天満橋」駅下車 東出口14番より東へ徒歩7分
- ・大阪市営地下鉄谷町線「天満橋」駅下車 1号出口より東へ徒歩7分（ドーンセンター隣）

追手門学院 大阪城スクエア（追手門学院大手前中・高等学校本館6階）
 大阪市中央区大手前1-3-20

